

「コロナウイルスによって」

富山市立北部中学校 二年三組 長谷川 奈月

私がコロナウイルスによって変化した社会について思ったことが3つある。

一つ目は、私たち人間についてだ。よくテレビなどでは「日本人は優しい人だらけだ」と外国人は言うが、本当にそうだろうか。お金を得るためにマスクを買い占める人、自粛要請がでているのにも関わらず「自分だけは大丈夫」と外へ行き遊ぶ人、これを聞く限り、優しいではなく、自己中心な人が多いように思える。もちろん、みんながみんなそうゆうわけではない。マスクが欲しいのに言えない人、遊びたいのに我慢している人、そんな人たちはきっと大勢いるだろう。それなのに「お金が欲しいから」や「遊びたい」などといった身勝手な行動でなんの罪もない約一万个の命が失くなった。その中には、だれもが知る有名人もおられた。この方たちがなぜ亡くなられたのか、また亡くなられて学んだことを今後の生活に取り入れて生活してほしい。

二つ目は、食べ物についてだ。コロナウイルスなどまだ知らない時、テーマパークや映画館に行くと、ポップコーンを素手で食べることがあっただろう。今思うと、大勢の人たちが触った物に、自分自身も触れ、その触った手でポップコーンを食べるという行為は、とても不潔で今の社会でこのような行為をす

るのは危険だ。前までこのようなことは気にも止めなかったが、今ではスルーしたくてもできないことだ。よって私は今回の事態によって「ポップコーン革命」が起こるのではないかと思う。仮に、コロナウイルスが百パーセントこの世の中から消えたでしょう。だが、私は素手でポップコーンを食べようなんて思えない。なぜなら不潔だからだ。コロナウイルスはマスクだけじゃなく、ポップコーンなどに対する価値観も変えてしまったのだ。しかし、もし「ポップコーン革命」が起こるのならば、次このようなウイルスが来た時、少しだけかもしれないが被害を抑えることができるのではないかと私は思った。

三つ目は友達についてだ。学生である以上友達とは毎日会うことになるだろう。友達に会うなんて当たり前のように思えるが、その考えが休校に変化した。毎日のように会って話していた友達と一ヶ月も会えない。これなどればほど辛かったか私は思い知らされた。会いたいののに会えない、いつの間にか、前のような生活が特別になっていった。そんな長い休校が終わり友達に会えた時はうれしくてたまらなかった。だからこれからは日々の生活に感謝しながら学校生活を送りたいと思う。

このように、コロナウイルスは様々な影響を及ぼした。第二波が来るかもしれないというなか、これはみんなまで越えなければならぬ壁だと思う。一人一人自覚を持った行動をし、この事態を乗り越えようと思った。